

ONE YEAR AFTER CYCLONE NARGIS ON THE ROAD TO RECOVERY

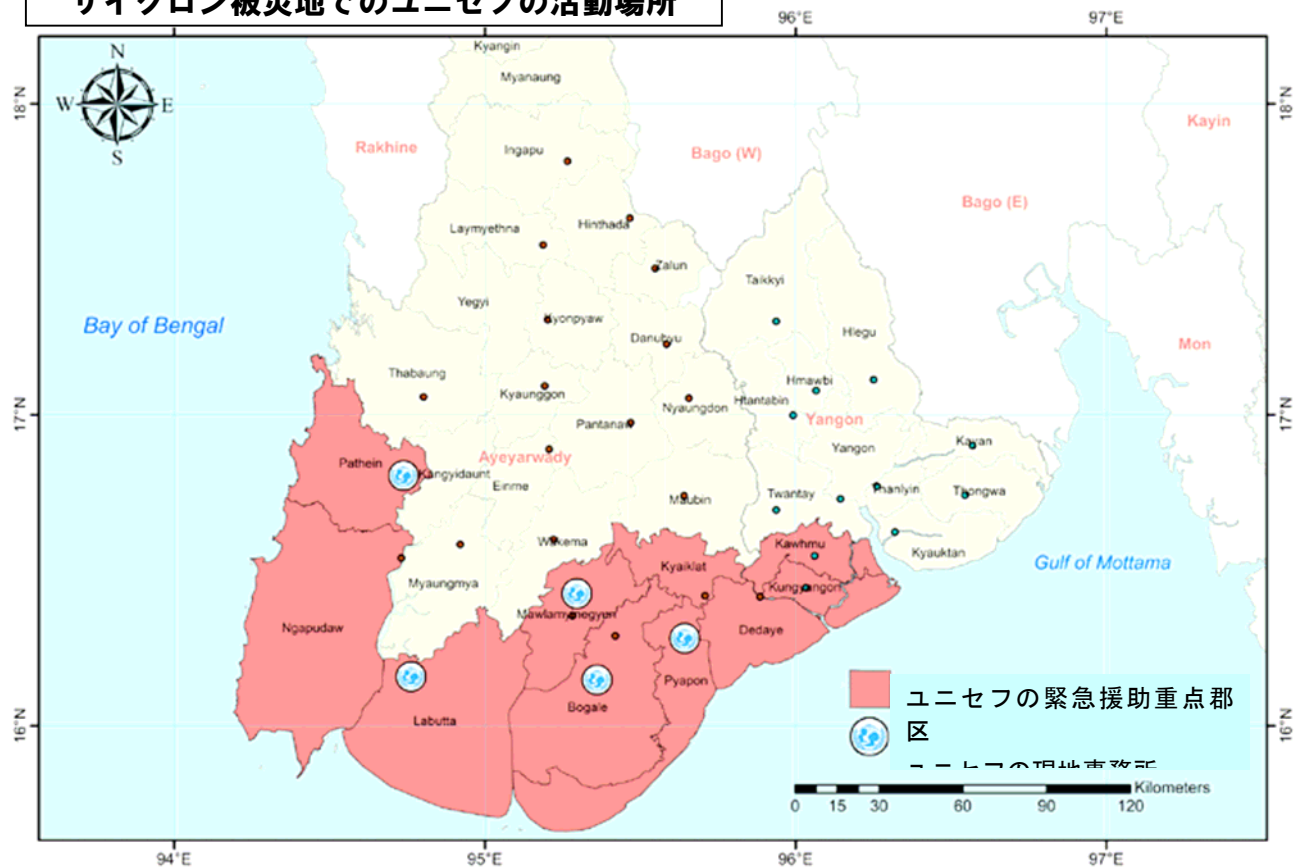
ミャンマー
サイクロンから1年
レポート要旨抜粋

UNICEF Emergency Response
UNICEF Myanmar, May 2009

unite for
children

unicef 

サイクロン被災地でのユニセフの活動場所



©UNICEF/Myanmar /2009/Khin Zaw
ユニセフが各家庭に提供した貯水用の水がめに自分の顔をうつす男の子

サイクロン被害から 1 年…続く復興支援活動

2008 年 5 月 2 日から 3 日にかけてミャンマーを襲い、甚大な被害をもたらしたサイクロン「ナルギス(Nargis)」発生から 1 年を迎えます。

被災者約 240 万人以上、その 4 割近くが子どもたちと推定され、その規模の大きさと地理的条件の厳しさから支援活動は難しいものとなりました。ナルギスが残した深い爪跡が残るミャンマーの子どもたちのために、ユニセフは現在も支援活動を続けています。

* * *

小学校 2 年生のス・パイ・フォヨ・ルウィンちゃん(7 歳)は、新学期が始まる今年の 6 月を目指して建設が進む真新しい学校の姿から目を離すことができません。

学期末が近づくとつれ、ルウィンちゃんや彼女の友達は、臨時の教室として使われている修道院から、学校が再建されていくようすを、ますます興奮して見つめるようになりました。彼女たちは、いくども、学校の校庭につくられている色とりどりの遊具のことを話したに違いありません。以前は、シーソーなんて想像上のものでしかなかったのです。

新しい学校の完成まであと 1 ヶ月。親も一緒になって、新しい教室の準備に大忙しです。この新しい学校は、サイクロン「ナルギス」に襲われるまでシット・カヤル・コーン村にあったかつての学校があった場所に建設されています。



©UNICEF/Myanmar /2008/Naing
サイクロンで跡形もなくなった小学校



©UNICEF/Myanmar /2008/Thame
仮設のテント学校から駆け出す子どもたち

ス・パイ・フォヨ・ルウィンちゃんとそのクラスメートの子どもたちにとって、建設作業はもどかしいほど進んでいません。子どもたちや教師、親でさえ新しい学校を待ち望んでいるのです。昨年の 5 月、甚大な被害をもたらしたサイクロン「ナルギス」に襲われてから、心から安心して学業に臨むことはできませんでした。でも、この新しい学校は、そうした「安心感」とともに、かつてなかったような学校での新しい生活ももたらしてくれるはずですよ。

学校は完成間近。ルウィンちゃんたちの新しい学校、シット・カヤル・コーン学校は、ユニセフがサイクロンの最も大きな影響を受けた 7 郡区に建設している 9 校のモデル校のひとつとなりました。シット・カヤル・コーン学校はサイクロンの影響で全半壊した 4,000 校の学校のうちのひとつです。

シット・カヤル・コーン学校は、サイクロンの被災前にあった学校より、より良く、より安全に、より子どもに優しい学校にデザインされています。この国で今後建設されている学校のモデルとしての役割も担っているのです。

以前より良い環境を創る

ヤンゴン管区にあるシット・カヤル・コーン学校は、新学期、100 人の生徒を迎える予定です。「よりよい学校再建」イニシアティブのもとで再建されている他の 8 校と同様、この 6 月に開校予定のこの学校にも、図書室、校庭、校庭の外壁、職員室が整備されています。すべての学校に、清潔な水飲み場やトイレが設置され、障害のある子どもたちも容易にアクセスできるような配慮がなされています。

新しい学校はまた、ミャンマーの伝統的な建築様式に基づきながら、現地で調達可能な材料を利用して、暑さや騒音を軽減する新しい技術も導入されています。また、今後起こり得る災害に備え、コミュニティの緊急避難所として利用できるようにもデザインされ、サイクロンや地震にも十分に耐えうるよう設計されました。ユニセフは、2010 年末までに、こうしたモデル校を 37 校建設する予定です。

最も悲惨な災害のひとつとも言われたサイクロン「ナルギス」がもたらした甚大な被害。村の人口に減ったのは、子どもたちの教育への「希望」だけでした。修道院の臨時教室で授業が再開されると、ユニセフ・ミャンマー事務所は、授業をより活発にするための学校教材、教科書、学校用具を積極的に提供しました。

「コミュニティも私も、学校施設を維持し、学校を安全に保つために細心の注意を払います」学校建設のために自らの土地を申し出た、村の修道院長バツダンダ・サンダウバスさんは話します。



©UNICEF/Myanmar /2008/Holmes
ユニセフから提供された通学かばんを
背負って帰宅する子どもたち

サイクロンによって、多くの人びとの生活が崩壊しました。学校の再建作業は、こうした人びとが仕事を得る貴重な機会も与えています。「一日 2,500—3,000 チャット稼ぐことができます。」村人のウ・キャウ・モエさんは話します。「サイクロンで、野菜畑を失いました。節約して、学校建設の仕事で得た収入で、早く元の生活に戻りたいです。8 年生になる娘のように、優秀な子どもたちを多く生み出す学校の建設を手伝ってとても光栄です」

村の住人たちは、学校建設に積極的に参加しています。学校建設がおこなわれている地域では、教師や保護者、そしてコミュニティの住人が、学校建設に関わる人びとのために、食事や宿泊場所を提供しています。

「学校を建ててくれた人に、どんなに感謝してもしたりません。子どもたちに、より良い学習環境を作ることはとても大切なことです。」ハラ・ミョさん(41)は興奮気味に話します。彼の息子も、この



©UNICEF/Myanmar /2008/Thame
文房具などの入った通学かばんを受け取る子どもたち

新しい学校に通う予定です。ミョさんは学校再建に協力し、雨の日も晴れの日も、長時間働いています。

ミャンマーのデルタ地域を中心に襲ったサイクロン「ナルギス」への緊急支援の一環として、ユニセフは、被災した 2,740 校の 60 パーセント近くに、学校用具、教育用教材、学習用教材、遊び 場づくりのための資材などを提供。これにより、41 万人の小学校の子どもたちが恩恵を受けました。この

支援により、学校閉鎖の期間は最小限に抑えられ、31 万 5,000 人の子どもたちが小学校に再び通うことができるようになりました。

ユニセフはまた、「より良い学校再建」イニシアティブの一環として、教員 4,500 名に、子どもを主人公にした新たな教育アプローチの研修も実施しています。

「この地域に、真新しい、以前よりも強くて質の高い学校が建設されるのを見て、本当に感動しています。私たちの村が、学校建設のモデル校のひとつに選ばれたことも誇りに思っています」ダウ・サン・イ校長先生は涙を浮かべてこう話しました。

ユニセフの復興支援活動は順調に進んでいます。しかし、ミャンマーの子どもたちが抱える問題の長期的な解決をもたらすためには、引き続き、息の長い地道な活動が求められています。

(日本ユニセフ協会ホームページ掲載記事より)

保健、H I V／エイズ分野での成果

- 90% の子どもたちにはしかの予防接種を実施し、被災したすべての地域で定期予防接種普及率を 80%を達成
- 被災した子どもと女性の 80%が、妊産婦と新生児のための緊急かつ予防的・治療的サービスを受けることができた（H I Vを含む）
- コレラ、マラリア、デング熱などの伝染病の発生を抑え込むことができた
- 80%の基礎保健施設が活動を再開し、妊産婦および新生児・子どもの保健サービスが復興した



©UNICEF/Myanmar /2008/Myo Thame
災害後、最小限の時間で定期予防接種の再開にこぎつけました

栄養分野での成果

- 子どもの栄養状況についての包括的な情報が利用可能になり、それをもとに対応が考えられた
- 被災した 37 地域の子どもと授乳中の母親が、微量栄養素不良から守られた。少なくとも対象者の 90%がビタミンAの投与を受け、少なくとも 60%が、マルチ微量栄養素とビタミンB1の補給を受けることができた
- 乳児と幼児に対する適切な栄養補給（母乳育児や離乳食、食事）方法が促進された
- 生後 6～59 ヶ月の子どもおよび妊娠中・授乳中の女性の 54%が、栄養状態の悪化を防ぎ、乳児の栄養を守るため、栄養補助食の提供を受けた
- 深刻な急性栄養不良と診断された生後 6～59 ヶ月の子どもの 50%が、標準的な治療を受けることができた



©UNICEF/Myanmar /2008/Myo Thame
ヤンゴン・インsein地区の地域保健センターでビタミンAの投与を受ける赤ちゃん

水と衛生分野での成果

- 被災した 25 万人の人びとが、安全な飲み水を 1 日ひとりあたり 3 リットル、また、体を洗ったり、炊事や掃除に使ったりする清潔な水を 1 日ひとりあたり 10 リットル、それぞれ手に入れられるようになった
- 被災した 7 郡区の 55 万人の人びとが、衛生促進のためのメッセージや活動に接し、水に起因する病気や、不十分なし尿処理に起因する病気の予防が推進された
- 2 万世帯、500 校および仮設住居に衛生的なトイレと清潔な環境が提供された



©UNICEF/Myanmar /2009/Khin Zaw
ミア・サ・ング村のダウ・パウクさん。ユニセフから提供された水がめに水をそそぐ

教育分野での成果

- ユニセフは、被災した小学校 2740 校を支援し、その結果、およそ 410330 人の小学校の児童が学校に戻った
- 923 箇所の仮設の安全な学び場が設けられ（192 張のテント、731 棟の仮設建造物をユニセフが提供）、崩壊したりひどい被害を受けたりした 800 校の代替として活用された。学び場には清潔なトイレもつくられた
- 965 校が修復され、ユニセフから P T A を通じて屋根用シートが提供された
- 2325 校が、学習環境を復元し改善するために、机やテーブル、いすや黒板などの基本的な備品の提供を受けた
- 被災した 17 郡区の小学校 2300 校以上が、ユニセフから教材を受け取った
これには 2322 セットの学校キット、1845 セットのレクリエーションキット、1100 箱の図書館（箱に本がセットされている）、ライフ・スキルに関する教科書 15 万 3313 冊、小学校の教科書 20 万冊以上が含まれる
- 被災した 700 人の教員が自身の家の修理のための屋根用のシートを受け取った。また 1 万セットの教員用キットが配布された
- 5 歳未満の子ども約 1 万人が、幼児発達ケアセンターでのケアを受けることができ、また 2754 人の若者が学校外教育を受けた
- 小学校の教員 2430 人が“子どもにやさしい学校”アプローチと子ども中心の教授法について研修を受けた。さらにこの教員たちには、約 13 万 6000 人の子どもたちへの心理的なサポートのための支援もおこなわれ、『サイクロンから生徒たちが立ち直す手助けをするために・・教員のためのヒント』と名づけられたハンドブックが配布された
- 「以前よりも良くなる再建」のモデル学校 9 校が建設され、10 校が建設中、さらに 18 校の建設が 2010 年までに完了する予定。ユニセフは、この 37 校を子どもにやさしいモデル学校として建設を支援している



©UNICEF/Myanmar /2008/Jim Holmes

ヤンゴン・カウム郡区・シット・カヤル・コーン村の仮設学校でライフスキルを学ぶ3年生の子どもたち。この村の小学校はサイクロンにより完全に破壊された。ユニセフはこの村のモデル学校の再建を進めており、2009年6月には新しい学校が開校する予定。

子どもの保護分野での成果

- 緊急支援は子どもの保護に関して広範囲にわたる意味合いを持ち、活動の結果、子どもの保護に関する対策活動や地理的な活動範囲の拡大をもたらした
- ユニセフは、初めて「緊急事態下の子どもたちの保護に関する国家行動計画」を策定する政府のサポートに中心的な役割を果たした。これは、長期にわたる適切な対応、改善された制作による子どもの保護のシステム、および緊急事態下での子どもの保護に関する能力強化などを目的としている
- ユニセフと事業の実施パートナーは、家族とはぐれたり、ひとりぼっちになったりした子どもたち 1396 人を保護・登録し、支援をおこなった
- 2009 年 4 月時点で、家族の搜索や家族との再会支援策により、575 人の子どもたちが両親のどちらか、もしくは家族の誰かのもとに帰ることができた
- 子どもの一時的なケア施設は定期的にモニターされた。教育的な支援（制服、文具や学校への交通などを含む）や、保健面での支援（医療機関との連携）がおこなわれた
- コミュニティが運営する”子どもにやさしい空間”135 箇所が、訓練を受けた N G O スタッフの監督のもとに設置され、これらを通じて 29300 人の子どもたち（女子 15100 人、男子 14200 人）が、心理的なケアや支援を受けることができた。子どもにやさしい空間では、レクリエーションや学習活動もおこなわれ、身体的・福祉的支援の必要な子どもたちはこれらの施設を通じてサービスを受けることができた
- ユニセフは N G O や国連、政府などからの 300 名以上のスタッフに対して、緊急時の子どもの保護に関する様々なトレーニングを実施した。加えて、ユニセフと N G O（事業の実施パートナー）の 600 人のスタッフは、性的虐待と搾取の防止に関する行動倫理規範に署名した
- ユニセフのアドボカシー活動の結果、社会福祉局は 9 月末に、コミュニティレベルで子どもの保護に関するサービス提供を強化するために、5 郡区で 5 人のソーシャルワーカーを任命した
- 子どもたちの家族の搜索と再会プログラムを進めるために、ユニセフは N G O と協力して国レベルのインフォメーションセンターを開設し、各機関間をよりうまく調整し、必要な情報が共有されるようにした。また、ユニセフは、ラプッタに地方レベルのインフォメーションセンターも開設した

フォトギャラリー ～支援の現場から～



子どもにやさしい空間にある「箱の中の学校」型図書室の物語本を読む男の子。
ユニセフはサイクロン後、子どもにやさしい空間を343ヶ所設け、子どもたちへの心理的、余暇的、栄養的な支援を行う中心的な役割を担いました。パ・ウェイン村の子どもにやさしい空間は、日中、5歳未満の子どものデーケアセンターにもなりました。
©UNICEF/Myanmar/2008/Jim Homes



©UNICEF/Myanmar /2008/Myo Thame
ユニセフの支援する仮設保健クリニック（エーヤワーディ地域ラブッタ郡区）



©UNICEF/Myanmar /2008/Jim Holmes
生後10ヶ月の息子とともにクリニックを訪れたお母さん
子どもは深刻な栄養不良で、母親は、子どもに与える一週間分の栄養強化ビスケットをもらいました
パブッタロック・タウン村



©UNICEF/Myanmar /2009/Sandar Linn
 助産師の家庭訪問で診察を受ける19歳の妊婦。マウギン郡区
 この村の保健センターはサイクロンで破壊され、ユニセフが再建を支援しました



©UNICEF/Myanmar/2008/JimHolmes
 カウム村の幼児発達ケアセンターに集まるコミュニティの住人たち
 おもちゃになりそうな素材を使いながら、住民自らが子どもたちのケアに携わっています



©UNICEF/Myanmar/2009/KhinZaw

↑ 家庭で水を貯えておくための大きな陶製の瓶（水がめ）を運ぶ大型船と、荷を積み替えるボートの列。水がめは環境に優しく、60ガロン（約250リットル）の容量があります。もともと各家庭で伝統的な水がめが使われていましたが、サイクロンで壊滅状態になりました。ユニセフは現地NGOと連携をして、各世帯に水がめを提供しました。水がめはボートで各村へ運ばれてゆきました



©UNICEF/Myanmar/2008/MyoThame

↓ 地元で調達可能な素材を使って
つくられた雨水を貯めておく設備
ラブッタ郡区



©UNICEF/Myanmar/2008/Jim Holmes

↑ 家庭用衛生キットを運ぶ村人たち
ウェ・チャウン村



©UNICEF/Myanmar/2009/MyoThame

↑クウイン・キャ・タウ村で建設が進む子どもにやさしいモデル学校
新しい年度のはじまり（6月初旬）には、この学校での授業が再開される予定です



©UNICEF/Myanmar/2009/WinNaing

学校の建設現場で、これからできあがる学校の予想図を見る子どもたち
キャウン・ゴーン郡区



©UNICEF/Myanmar/2008/JimHolmes

バ・ウェイン村の子どもにやさしい空間から外をのぞく子どもたち
ユニセフの支援により、コミュニティが運営する”子どもにやさしい空間（CFS）”が
135箇所設置されました。CFSでは、トレーニングを受けたNGOのスタッフのもとで、
3万人近くの子子どもたちが、レクリエーション活動や学習活動に参加しました



©UNICEF/Myanmar/
2008/AngelaTaung

子どもにやさしい空間は、学校に行けない子どもたちにも職業訓練の場を提供しました
サンピャ村の”子どもにやさしい空間”で、刺繍や色とりどりのハンモックの編み方を学ぶ少女たち

謝辞

ユニセフ・ミャンマー事務所は、サイクロン「ナルギス」の災害に対する緊急援助活動をご支援くださったすべてのご支援者に対し心からの感謝の意を表します。

皆様からの資金によって、被災地でもっとも支援を必要とし、もっとも危険にさらされていた子どもたちとその家族を支援することができました。また、ご支援により新しい活動の実施が可能になり、それによってユニセフのミャンマーにおける緊急援助活動の効率性や管理体制の向上にもつながりました。

心からありがとうございます。

